

糖尿病と歯周病の医歯薬連携講演会(食、血糖、口腔機能、慢性病)のご案内

平素より本会会務運営にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本会では口腔保健推進事業として表記研修会を、松阪地区医師会、松阪地区薬剤師会の御協力・御賛同を得て下記のとおり開催いたします。

糖尿病と歯周病の関連性には、炎症というキーワードが存在します。糖尿病において歯周病は第6番目の合併症です。また両者の類似点は①食を中心とする生活習慣病に影響を受ける②中年期から増加傾向③家族歴がある④血管へのダメージがある。この事を他医療関係団体と連携する事で、地域にまん延する糖尿病、歯周病を広く制御できる鍵があり、小児から高齢者までの豊かな食生活と未病への対策をしてゆける可能性が広がります。

講師は今、全国で引っ張りだこの先生です。皆さまにご参加頂ければ幸いです。

— 記 —

日時：平成30年12月9日(日) 10:00~12:30

会場：三重信用金庫本店5Fホール 松阪市朝日町1区16-6 電話 0598-53-2222(代)
※松阪駅北口(駅裏)より直進、1つ目交差点を渡り左側。徒歩5分。松阪済生会病院向かい。
公共交通機関をご利用頂くか、お乗り合わせの上お越しください。⑨80台

講師：にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 亙先生(糖尿病専門医)
原瀬歯科医院 院長 原瀬 忠広先生(歯周病専門医)

演題：『炎症でつながる糖尿病と歯周病』

～内科医と歯科医が語る医科歯科薬科の相互連携～

対象者：医師、薬剤師、歯科医師、保健師、看護師、栄養士、歯科衛生士、その他医療関係者

・日歯生涯研修 IC カードをご持参ください。研修コード 3402 5単位

・この講習会は、松阪地区歯科医師会の平成30年度後期学術研修会を兼ねております。

**【注】12月9日 県歯・医療管理講習会と本講演会が重なっております。つきましては、
11月18日(日)14時~16時 県歯主催の医科・歯科合同研修会(会場：県医師会館)に
参加ください。施設基準受講証明書(認知症を含む)が発行されます。**

平成30年11月25日までにFAXにて松阪地区歯科医師会事務局までお申し込み下さい。

12月9日(日)「糖尿病と歯周病の医歯薬連携講演会」参加申込書 FAX 0598-26-7603

| 所属・医院名 | 申込者名 | 職種 |
|--------|------|----|
| | | |
| | | |
| | | |

【講演会 抄録】

演 題「炎症でつながる糖尿病と歯周病

～内科医と歯科医が語る医科歯科薬科の相互連携」

◆内科医が語る医科歯科薬科の相互連携 にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 亙

糖尿病と歯周病の関連性が着目されるようになった背景には、”炎症”というキーワードが存在します。歯周病と糖尿病で起きている慢性微小炎症は、炎症性ホルモンの分泌を通じて、インスリン抵抗性をもたらし、結果として血糖値を上昇させます。両者はこの共通した病態を持つ故に、数ある糖尿病合併症の中で歯周病は唯一、糖尿病と”双方向性の関係”を持つのです(同じように悪化し、また同じように改善する)。

糖尿病領域における医科歯科連携の歴史はまだ浅いものの、ここ数年の間に劇的な進展を遂げつつあります。例えば2016年、日本糖尿病学会は様々な研究成果から、糖尿病に対する歯周治療の有効性を認め、同年に発表された糖尿病診療ガイドライン中において「糖尿病患者に対する歯周治療を推奨する」と高らかに宣言しました。

本日の講演では、糖尿病と歯周病がつながる臨床的・基礎的基盤を解説し、糖尿病領域における医科歯科連携のこれまでの歴史を俯瞰した上で、薬科も含めた”三師会”が今後進むべき道について内科医の立場から提案させていただきます。

◆歯科からみた糖尿病医療連携 原瀬歯科医院 院長 原瀬 忠広

糖尿病療養は症例を通して多職種による共有と共感を持ち、共に学ぶことが重要です。歯周病は、2008年糖尿病治療ガイドに合併症の一つとして初めて登場しました。

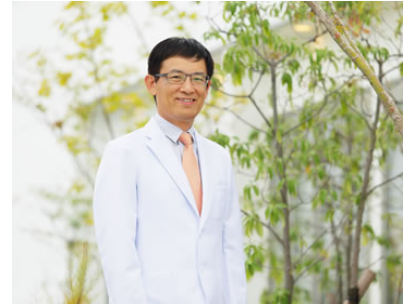
しかしながら、歯周病が第6の合併症であることが知られてきましたが、網膜症のケアやフットケアなどの合併症予防の医療連携に比べると、認知度も低く、医療連携は一般に普及しているとはいえない状況です。また、2007年に日本糖尿病協会が日本歯周病学会と共同で作成した、歯科医師登録医向けの歯周治療マニュアルにおいて、「随時血糖値が200mg/dl以上の時は、観血的処置は避けること」、さらには「歯科医院の診察室には、血糖自己測定器を備えておくことが望ましい」と明記されておりますが、国内外において、一般歯科医院における血糖モニタリングさえ、これまでほとんど報告されておられません。

糖尿病と歯周病は全く異なる病気ですが、「コインの裏表」のように影響を及ぼし合っています。糖尿病治療の薬物療法、運動療法、食事療法の中に、歯と口のケアを位置付けることにより、新たな糖尿病療養のアプローチがみえてきます。

私たちは医科と歯科の溝を埋め、糖尿病患者と歯周病患者の橋渡しを目指す臨床研究や地域社会での啓発活動を行ってきました。今回は、これまでの臨床を通じた連携から明らかになった知見や智慧を皆様にご紹介した上で、議論を深めて頂きたいと考えています。

【講師略歴】

◆にしだわたる糖尿病内科 院長 西田 亙 先生



【略歴】

日本糖尿病学会専門医、医学博士

広島県広島市出身

昭和 63 年 愛媛大学医学部卒業

平成 05 年 愛媛大学大学院医学系研究科修了（医学博士）

平成 06 年 愛媛大学医学部 第二内科 助手

平成 09 年 大阪大学大学院医学系研究科 神経生化学 助手

平成 14 年 愛媛大学医学部附属病院 臨床検査医学（糖尿病内科）助教

平成 20 年 愛媛大学大学院医学系研究科 分子遺伝制御内科学（糖尿病内科）特任講師

平成 24 年 にしだわたる糖尿病内科 開院、現在に至る

◆原瀬歯科医院 院長 原瀬 忠広 先生



【略歴】

昭和 34 年 1 月 愛媛県松山市出身

昭和 58 年 3 月 日本歯科大学新潟歯学部 卒業

同年 日本歯科大学新潟歯学部歯科麻酔学教室入局

平成 2 年 原瀬歯科医院勤務

平成 18 年 1 月 医療法人 原瀬歯科医院理事長

【公務等】

平成 16 年～平成 18 年 3 月 松山市歯科医師会学術部委員

平成 18 年～平成 27 年 6 月 愛媛県歯科医師会総務・学術担当理事

平成 18 年～平成 27 年 6 月 愛媛県警察歯科医会監事

平成 23 年～平成 25 年 日本歯科医学会評議員

平成 25 年～平成 29 年 日本歯科医師会学術委員

平成 27 年～現在 愛媛県糖尿病協会理事

平成 29 年～現在 愛媛大学医学部口腔外科非常勤講師

平成 30 年～現在 日本糖尿病協会医療者教育委員